

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡崎市立細川小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒444-2149

E-mail hosokawa@st.oklab.ed.jp

Website http://oklab.ed.jp/weblog/hosokawa/

幼児児童生徒数 男子 424名 女子 408名 合計 832名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「健康・自主・創造」を校訓として、「たくましく自分の力でつくりだす子」を目指す子供像として教育活動を進めている。

環境教育・英語教育・ふるさと教育を3つの柱として実践を行っている。これらはESDの理念と共通するものである。

また、総合的な学習の時間には市独自の環境プログラムのほかに、各学年で学区の調査や福祉体験、ごみ問題、環境問題への取り組みなど継続的発展的に行っている。

① 環境教育に係わる活動

毎年6月に学区の河川美化活動をPTAや地域と協力して行っている。学区を流れる北斗川に愛着を持たせるとともに、河川に生息する生き物の保護や環境の保全、また自然に親しむことを目標にしている。この活動を契機に4年生では河川の水質調査を行ったり、2年生が水辺の生き物の観察を行ったりするなど、学習につなげている。

総合学習では、4年生が家庭や地域、市内ごみ問題について学んでいる。学習のまとめとして保護者を招いて発表会を行っている。

② 英語教育に係わる教育

本誌が英語教育の特例区となっていることを受け、モジュールによる英語活動を1年生から行っている。ALTが定期的に訪問し、ネイティブティーチャーとの外国語活動も行われている教科化を見据えて、職員への英語研修なども外部講師を招いて行っている。

③ ふるさと教育に係わる活動

地域に伝わる郷土芸能を継承していくために、本校には「郷土芸能クラブ」「チャラボコクラブ」が設置されており、年間を通して外部講師を招いて指導を受け、様々なところで発表する機会をいただいている。その郷土芸能が、御殿万歳であるので、3学期の始業式や敬老会などめでたい席で披露をしたり、地域の介護施設などへも慰問して、発表したりしている。チャラボコクラブでは、チャラボコ太鼓を演奏するわけであるが、本年度は伝統的に継承されている曲のほかに、子供たちが新しく曲を作り、校内でお披露目をした。

④ 総合的な学習の時間に係わる学習

3年生では、学区を探検し、自分たちの故郷に古くからあるものをさがして調べたり、地域の人から昔の話を聞いたりしてふるさとへの愛着をもてるようにした。4年生は前述のようにごみ問題に取り組み、家庭でできること自分のできることを考え、発表会で保護者に向けて発信をした。5年生では、「福祉」をテーマに地域の福祉に携わる人や障害を持っている人々との交流を通して、自分ができることは何か、これからの社会に必要なことは何かを考え、話し合った。6年生では、地域や日本、世界の環境問題に目を向けた調べ学習を行い、地球規模で起きている様々な環境問題に目を向けさせるとともに、自分たちにできることは何かあるのか、考えをめぐらした。すべての学年で授業公開日の特設授業として発表を行った。



① 河川美化活動



② ALT との外国語活動



③ 3学期の始業式で
御殿万歳の鑑賞



④ 総合のまとめ発表会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休日 河川化活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校内には ESD カレンダーがあり、各教科の活動を ESD と結び付けて考える基盤がある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年での総合学習の取り組みをある程度固定化して、継続発展ができるようにしている。ノウハウが蓄積される。
発表する、という【発信】を最終の活動としていることで、家庭や地域とのつながりをより強くできるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

外部団体とは交流する時間的余裕がない。日々の教育活動の中でいかに ESD を位置付けていくかという点が重要。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

保護者からは学習への理解を得られた。地域の方も発表を聞きに来られ、子供たちの活動を評価された。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

無理な行事や活動をせず、継続できることを地道に行っていく。